

変容する孤の空間

孤りに苦しむあなたへ

コロナ禍で自室で時間を過ごすことが多くなる。

一人で同じ空間に長く居続けると、様々な物思いにふけることが多くなる。うまくいかずにやるせない日々の中、毎日のように自分と向き合う。時に自己否定に陥り、時に現実を受け入れられない。自分が想像する理想の世界に没頭する。

次第に、一つの無機質な空間に閉ざされるように、自分の心も閉ざされてしまう。一度閉ざされるとなかなか元の自分に戻れない。他者（社会）との距離感を感じるだけでなく、本当の自分との距離感も感じるようになる。まるで自分が自分でないように。

それでも自分と向き合う時間を大切にする。時に自己を抑制しすぎ、心苦しくなることもある。そんな時、心を解放するひと時も一人の時間の中で大切にする。孤りの時間で自己を見失わない。

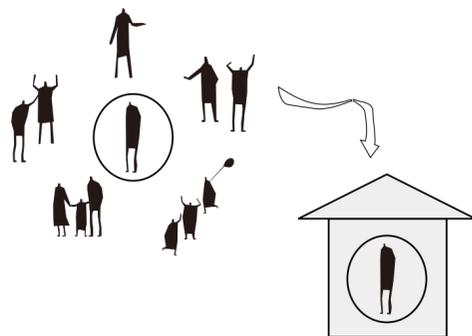
この集合住宅はそんな孤りに苦しみやすい人々が共に暮らす。他者を感じることによって孤りを再認識する。他者がいるからこそ自分が生かされる。建築・空間が心境に対する受け皿となり、孤りの空間の価値を感じさせる。

孤を深め、孤を強め、孤を愛する。孤りでいることの価値を問い直す。

コロナ禍と孤の空間

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出の規制や在宅ワークが日常化した中、人々は距離に対して敏感になるとともに、**一人で過ごす時間が急激に増えた**。「状況としての一人」は同じでもどう受け止めるかは人によって異なる。日々の充実感を感じる人、能動的に変化を楽しむ人、漠然とした孤独を抱える人など様々である。そんな中、一人の時間が続き、精神的に苦痛を感じる人は少なくないだろう。時間経過とともに感じ方も大きく変わることもあるが、彼らには**心境に寄り添うような孤の空間**の変化が必要である。

またそれと関連して、近年単身者の増加が著しく、彼らの生活は**無機質な個室**で完結することが余儀なくされる。そこで、集合住宅の個室そのものの在り方、集合体としての在り方が問われる。住宅に様々な機能が要求されるようになった現代、居住者が己の住まい方で己を尊重する多様性を内包した居住空間が求められる。



提案

孤りに苦しむあなたへ。孤りの価値を問い直す集合住宅。

他者との接点をどう作るのかではなく、

孤の空間をどう作り、他者との関係から孤の価値がどう生まれるのか。

3つの空間からなるワンルーム

それぞれの空間が住人の心境に寄り添う。
無機質な空間に閉ざされず、自分の心も閉ざされない。
空間の往復によって、孤りの自分は自分を見失わない。

他者との境界

誰かのアクションが作り出している空間性が自分の形を決めている。
その時、他者に対する想像力が働き、孤りの自分の価値が立ち上がってくる。
他の人が自分と違うから自分の形が見えるようになる。

対象敷地

大阪市立大学杉本キャンパス近くが敷地である。交差点に位置しており、多くの学生や近隣住民が行き交う。周辺にはワンルームマンションやアパートも多く点在し、単身者の居住環境に適した地域となっている。孤りのための建築であるが、そこは他者と行き交い、他者と接する都市である。他者とのかかわりを継続しながら暮らし、その中で孤りの時間空間を過ごすことができる。



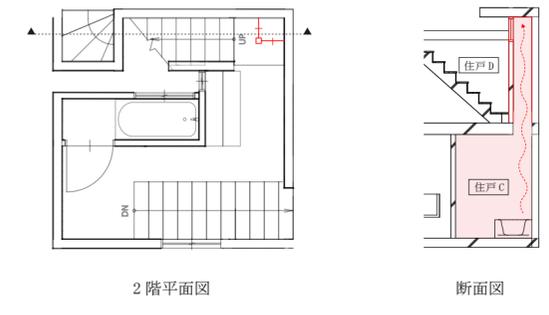


他者を感じる境界

他者と接するのではなく、他者の気配をわずかに感じる。だからこそ孤りを強く感じ、自分の価値観を再認識する。

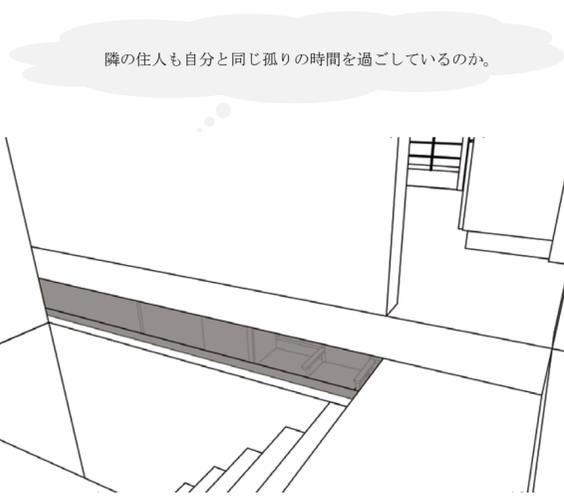
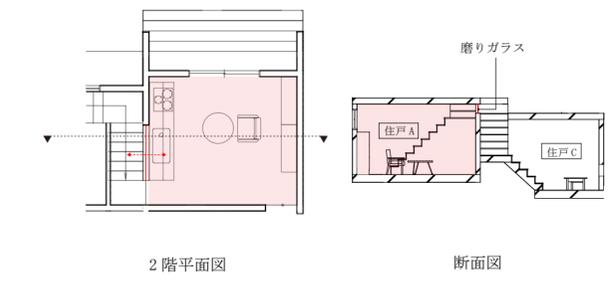
境界 1

小さな吹き抜けから、下階の住戸の明かりや湯気が立ち昇る



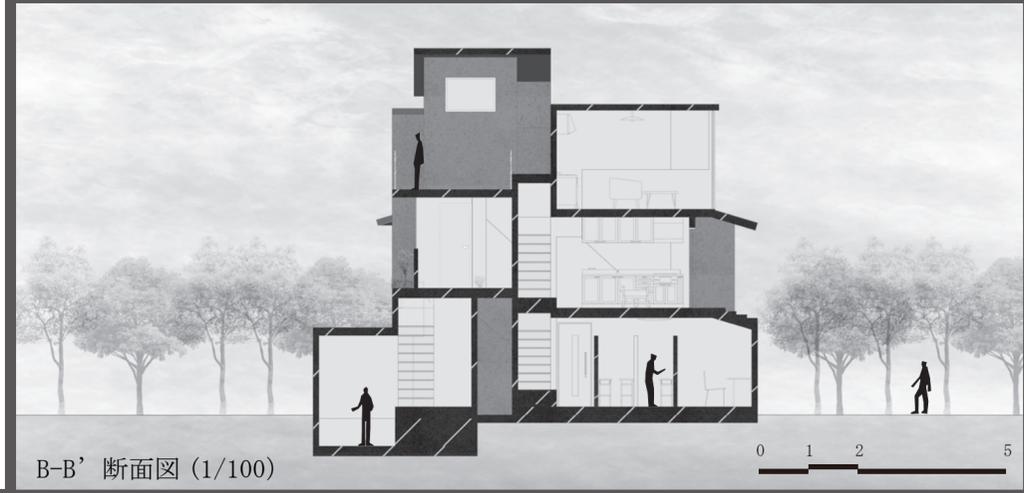
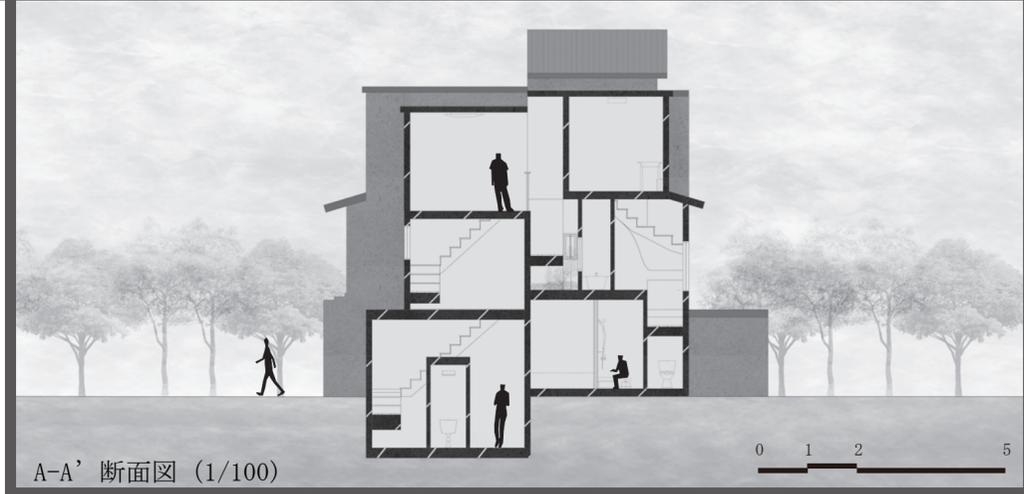
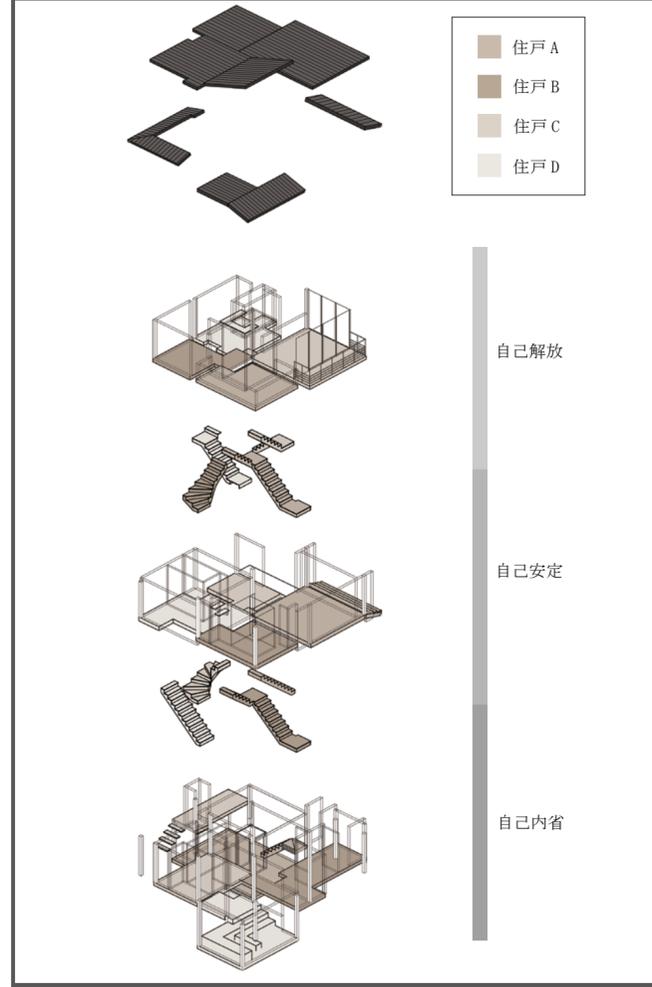
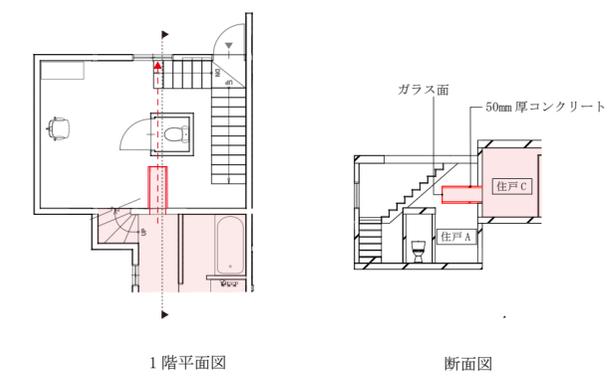
境界 2

スラブのずれで生まれた小さな隙間から光りが漏れる



境界 3

筒状の開口が隣住戸に貫入する

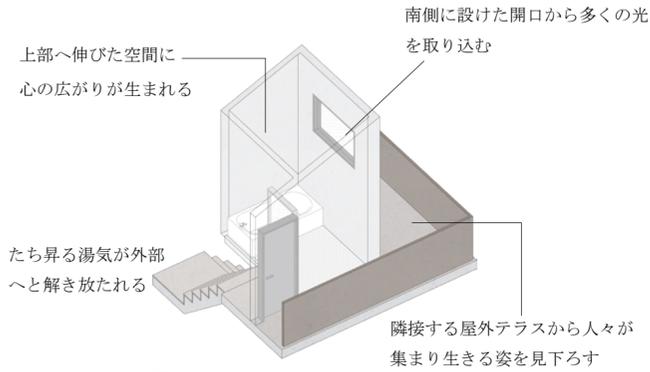
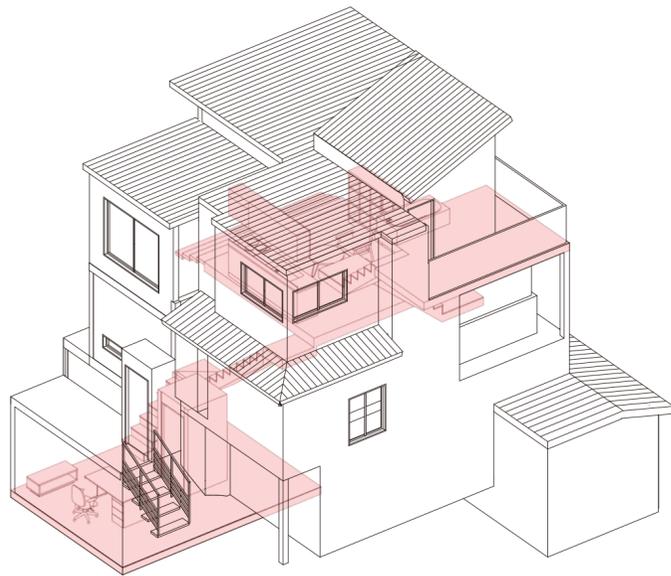


①住人 A

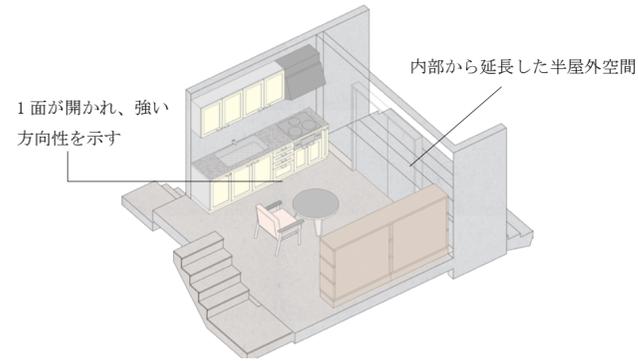
建築学科の大学生



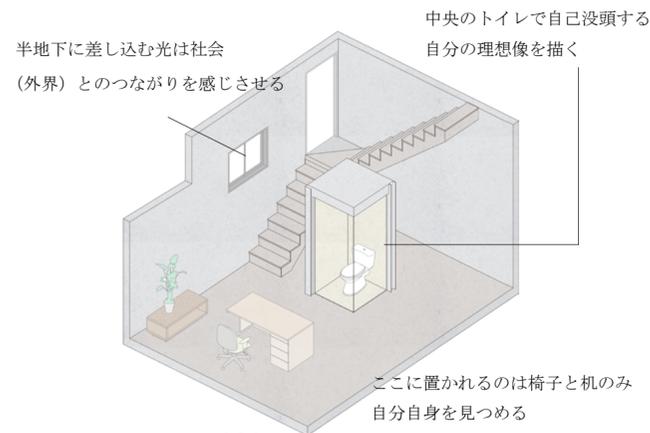
机の上で静寂の中、自分自身と向き合う。
時にトイレで自分の世界観に飛び込む。
心落ち着き、心の中に余白が生まれる空間も必要である。
風呂が自己を解放する最適の空間である。



風呂 × 解放



キッチン・リビング × 安定



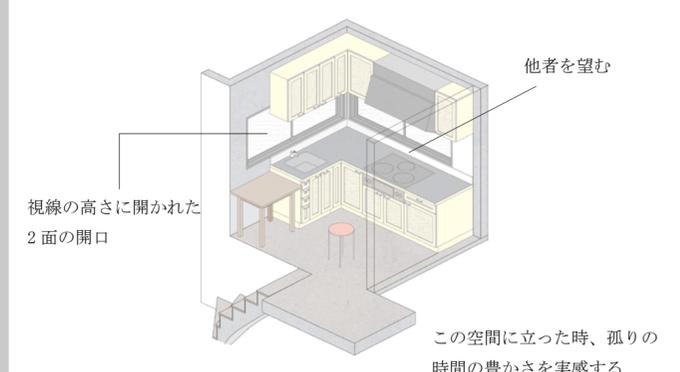
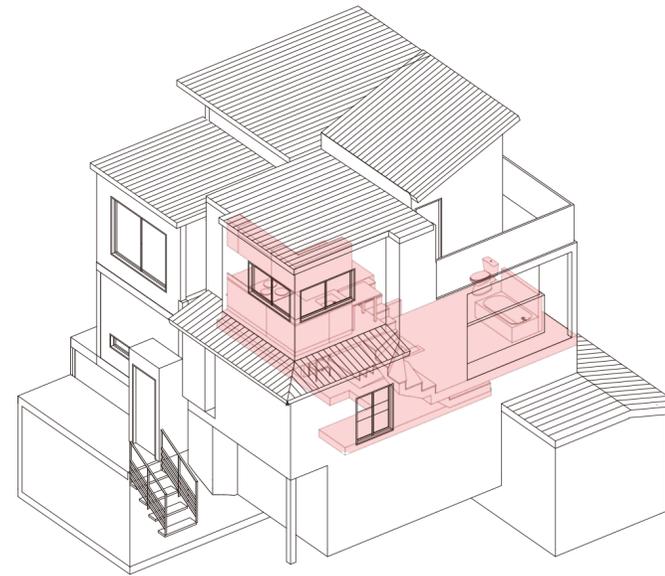
個室・トイレ × 内省

②住人 B

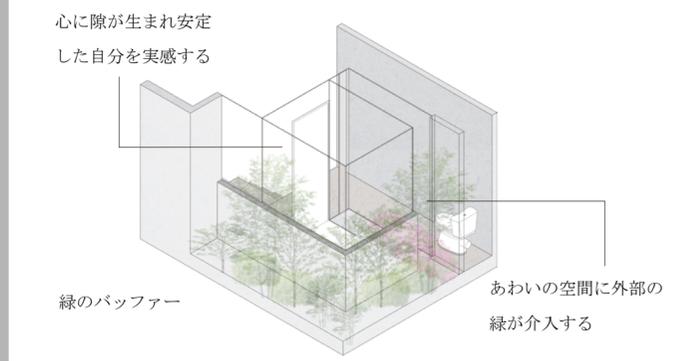
趣味が料理の大学生



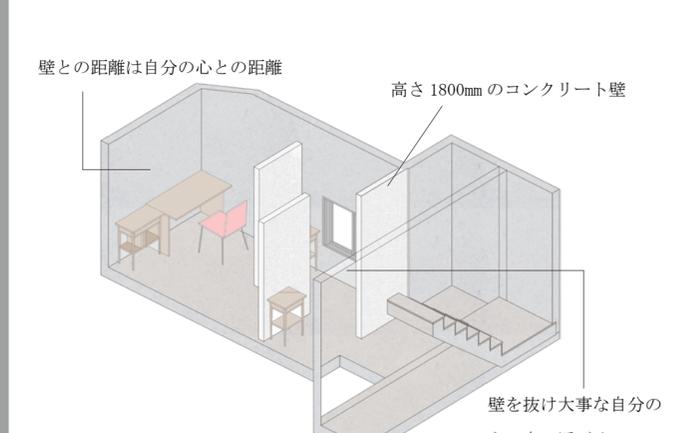
個室で自分を振り返るのが日常である。
ただ、自己否定に陥ってしまう。
風呂で心を休め、キッチンで趣味を楽しむ。
心の底から一人が心地良いと感じる。



キッチン × 解放



風呂・トイレ × 安定



個室 × 内省



中央にある一つの空間。
そこは自分が自分に没頭する一つの世界。



はるか遠くの天井と差し込む光。
抑圧された心の解放。



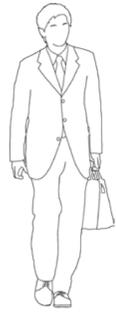
壁を抜けた先に待つのは
心の奥にいる自分。



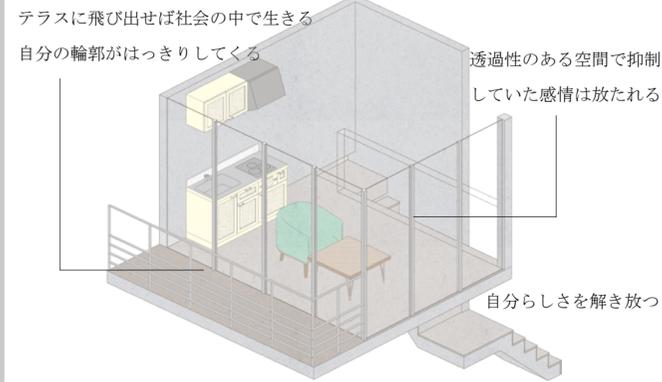
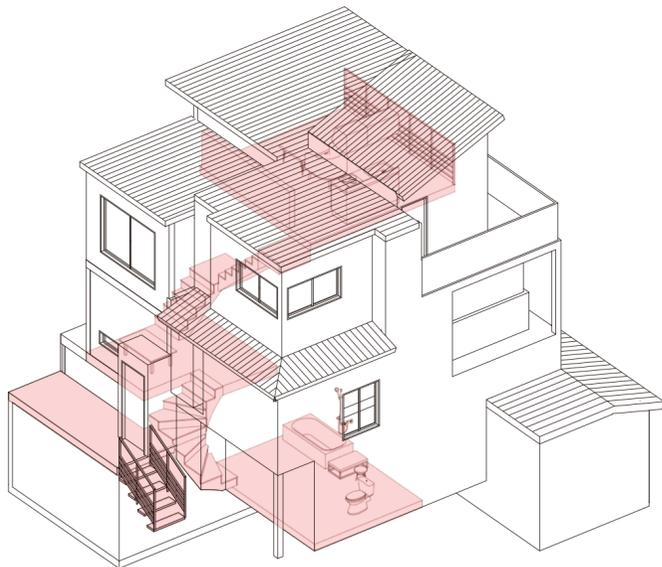
あわいの空間に介入する自然。
雑念を取り去り、生まれるのは心の余白。

③住人 C

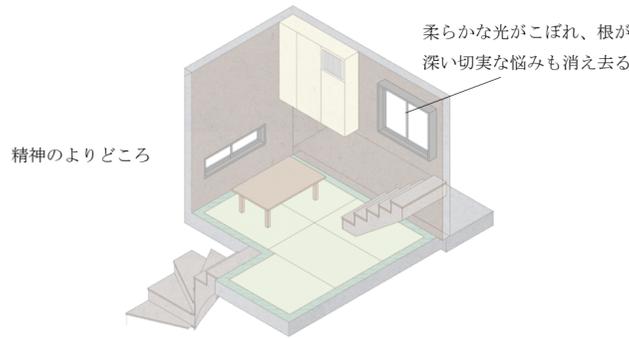
IT 関係の事業者



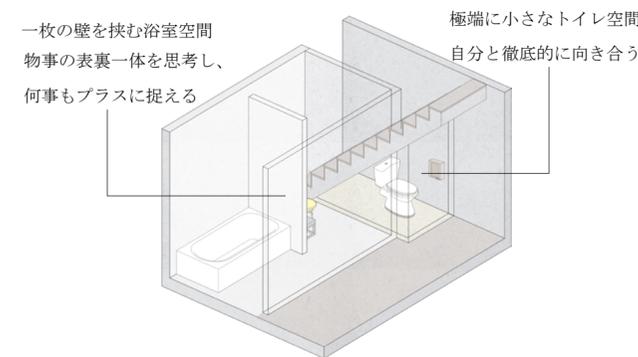
風呂で自分を深く考えるが、ネガティブに試行してしまう。
裏返せば持ち味となることを認識する。
心落ち着く畳の空間でリモートワークをする。
リビングで趣味の読書を楽しむ。
周囲を見晴らし、改めて孤りの価値を再認識する。



キッチン・リビング × 解放



個室 × 安定



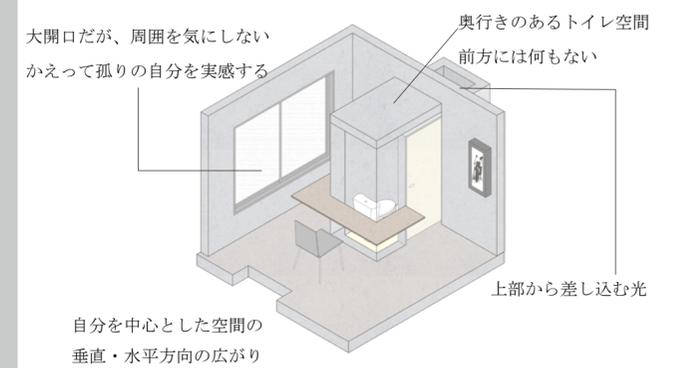
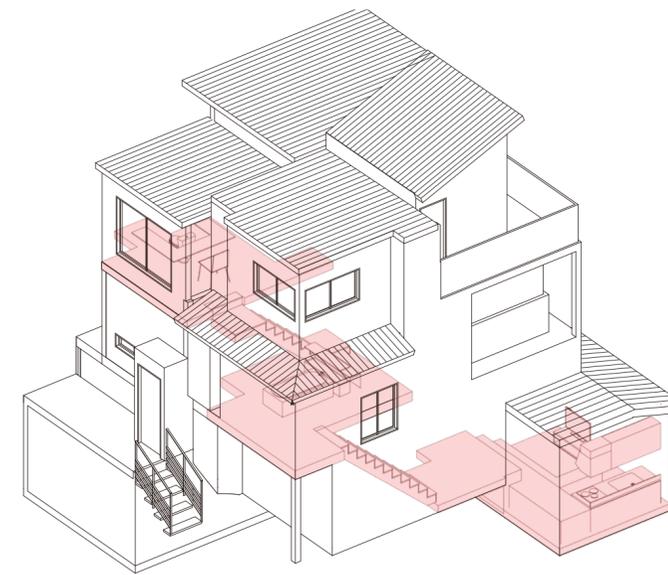
風呂・トイレ × 内省

④住人 D

アーティスト



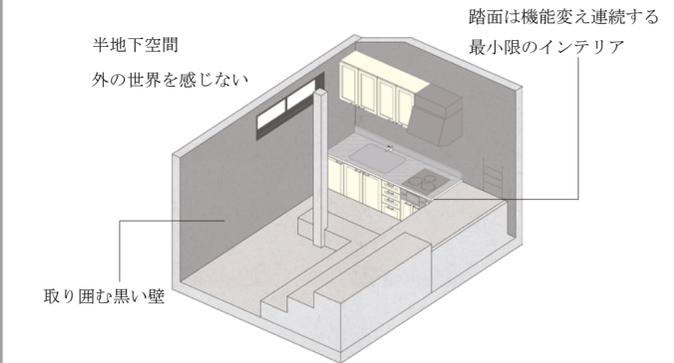
料理をしながら自分の人生を考える癖がある。
考えれば考えるほど、悲観的に捉えてしまう。
浴槽空間に身を置くと、心に隙が生まれる。
他人の目を気にせず、孤りの自分を大切にする。
その時自分の心は解放される。



個室・トイレ × 解放



風呂 × 安定



キッチン・リビング × 内省

重厚な壁を前に自分と向き合う空間。
一方は鏡を前に物事の見方を変える空間。

外の世界へと開け放たれた空間。
真の自由と自己の尊さを自覚する。

何もない空間に降り注ぐ光。
鮮明となる自分の方向性。

最小限のインテリア。
向かい合うのは光を受けて変容する漆黒の壁。

他者といるときの自分だけでなく、
孤りであるときの自分も価値があるものだ

自分らしさを高め、
社会に還元していこう

社会とのつながりがみえ、
孤りの喜びが大切に思えてくるなあ。

自分の嫌な部分ばかりを考えてしまうけど
それって自分にしかない持ち味なのか。

なぜか心が軽くなってきたなあ

さっきまでなんで自分はあんな感情
を抱いていたのだろう

人と関わっているとどこか
他人の目を気にしてしまう。
自分って一体何なんだろう。

孤りであることの価値を問い直した先に、人と一緒に住むことの新しい意味が浮かび上がる。

